

声

KOEI CONNECTION

興栄通信 No.73

MAY 2017

NO残業!

デー

私たちは週に一度、定時に会社を退社することにより、仕事とプライベートのメリハリがつけられる職場環境づくりを推進するワーク・ライフ・バランスの実現を目指し「ノー残業デー」を本年4月より実施しています。

これは、部署ごとに月あたり4日を設定し、慢性的な残業を無くし、効率的な仕事の仕方を身につけ、生産性の向上を推進すると共に、社員の健康保持・増進や時間外手当の削減による経費削減(コストコントロール)を目的としています。

ワーク・ライフ・バランスとは?

「ワーク・ライフ・バランス(仕事と生活の調和)」という言葉をご存じですか?働くすべての方々が、「仕事」と育児や介護、趣味や学習、休養、地域活動といった「仕事以外の生活」との調和をとり、その両方を充実させる働き方・生き方のことです。

といっても、具体的なイメージをもちにくいかもしれませんので、ここで、いくつか例を紹介します。

例えば...

いつも夜遅くまで仕事だけ

平日にもっと家族と過ごす時間が欲しいな
どうやったら残業を減らせるチームにできるかな
(管理職・40代)



今の仕事は好きなので、資格をとってもっと専門的な仕事ができるようになりたいな

夜間の大学に通いたいな
(技術職・20代)



体力的にきつい仕事が続いていて疲れがたまってきたなあ
そろそろ休暇をとって休養したいなあ
(専門職・50代)



今、仕事をしながら、子育てや介護などをしている人が増えている中、仕事と生活の調和を図りたいという人が多くなっています。また、子育てや介護以外の理由でも、資格を取ってキャリア・アップをしたり、NPOに参加しボランティア活動を行ったり、しっかり休養をとり疲労を回復するなど、様々なかたちで、ワーク・ライフ・バランスを実現できたらいいなと考えている人がたくさんいます。ワーク・ライフ・バランスは、働く人すべてに関係することなのです。そもそもワーク・ライフ・バランスとは、単に仕事と生活に割く時間を半々にするという意味ではありません。仕事と生活のうち、どこに重点を置きたいかはその人の生き方、働き方によって異なりますし、子育て期、中高年期といった人生の各段階に応じて変わってきます。つまり、ワーク・ライフ・バランスが目指す姿は、それぞれの人の置かれた状況に応じて仕事と生活のバランスをとれるようにすることで、多様な人材が自分の事情に合わせて働くことのできる社会なのです。

政府広報オンライン「特集ワーク・ライフ・バランス」より <https://www.gov-online.go.jp/>

働く方々にとってのメリットは?

健康づくりと休養のための時間がとれると心身の健康を維持できていいね

仕事帰りに学校に通って資格を取ったら昇進した

子育てをしながら仕事を続けられて生きがいを感じている

夫の残業が減り子育てや家事を分担できるようになって私も仕事との両立が楽になったわ

生活が充実すると仕事もやる気が出るね

介護サービスを上手に活用したら仕事と介護が両立できました

企業にとっては...

ワーク・ライフ・バランスは明日への投資だね!

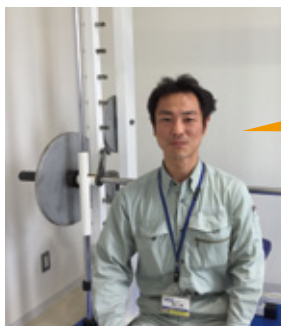


- 長時間労働を改善し、従業員の健康が守られる
- 仕事以外の生活を充実させることで、従業員の満足度や仕事への意欲が高まる
- 知識や技術、経験のある人材の離職を防ぎ、有能な人材の確保につながる
- 限られた時間で仕事を遂行しようとするため、仕事の効率化が図られる
- 仕事以外の生活の経験を通じ、生活者としての視点や創造性が養われたり、資格を取得したりするなど、従業員の能力向上につながる

ワーク・ライフ・バランスは、働く方々と事業主が共に協力して、自主的に取り組むことが望ましく、国や地方公共団体などが支援し、社会全体で取り組みを進めて行くべきものです。

お客様からの募集! 応募先メールアドレス hamaoka@koei-j.co.jp CS担当: 濱岡

いつも興栄通信をご覧いただき、誠に有難うございます。弊社では、サービス向上のためお客様の「声」を募集致します。お客様の「声」は、私たちの活力になります。ご意見、ご感想、ご提案など何でも構いませんので是非「声」をお聞かせ下さい。尚、頂いた「声」は今後記事として掲載させて頂く場合もございますのでご了承下さい。個人情報等はこちらからのご連絡以外に使用致しませんのでご安心下さい。



残業が多くトレーニングの時間がなかなか取れませんでした。この「ノー残業デー」を利用して会社のジム施設を使ってトレーニング始めました。

筋トレ大好き~

東日本営業部 第一営業課 [営業] 織茂さん

